

☆ピアニスト、アンドレ・デ・グロート氏の健康上の理由により、残念ながら共演を延期いたします。鷺宮美幸さんがピンチヒッターとして出演を快諾くださいました。

モーツァルト 再発見!

～R.シュトラウスの功績～

〈プログラム〉

*エイミー・ビーチ: ロマンス
Amy Beach: Romance

*W.A.モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ 変ロ長調 Kv.378
W.A.Mozart: Violin Sonata B flat Major Kv.378

*リヒャルト・シュトラウス: ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 作品18
Richard Strauss: Violin Sonata E flat Major Op.18

(曲目は変更になることがあります)



大津 純子 (Junko Ohtsu)

Violin

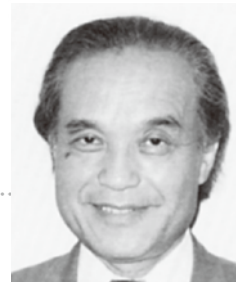
東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動を開始。ジュリアード音楽院在学中に、ジュネス・ミュージカル・インターナショナルおよびカーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム〈The Artistry of Junko Ohtsu〉のパブリックTVネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。国際交流基金派遣にてロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。『マラゲーニャ』、『アメリカ』(1988年、「レコード芸術」誌「室内楽準推薦盤」に選出)、『Prelude to a Kiss』などCD5枚をリリース。近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。2002年、自ら企画・プロデュースする室内楽シリーズ『Good Old Days～アメリカの“素敵な時代”』を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった「知られざるアメリカ」にスポットを当てた意欲的な好企画として、大きな注目を集める。2004年、イラストレーター・和田誠、ジャズピアニスト・佐藤允彦と共に、ジャンルを超えて音楽を楽しむという意図のもと、(Junko and the Night and the Music)シリーズを開始。3人の異なるバックグラウンドを活かしたユニークな企画は大好評を得ている。2005年より〈Junko's Heart to Heart concert〉シリーズも年2回展開中。



Piano

鷺宮美幸 (Miyuki Washimiya)

7歳よりピアノ、作曲、バイオリンを始める。その後、桐朋学園附属子供のための音楽教室、桐朋女子高等学校を経て、桐朋学園大学ピアノ科入学。在学中、フランス音楽界の第一人者H. ピュイグ＝ロジェ氏に見い出され、パリに留学。帰国後、桐朋学園大学を卒業。第56回日本音楽コンクール入選を皮切りに、UFAM国際コンクール・室内楽部門第2位、日本室内楽コンクール第3位、国際ピアノデュオ・コンクール2台4手部門第2位(日本人最高位)など、多くのコンクールに入賞するとともにツール国際アカデミーでは2年連続で最優秀受講生に選ばれた。音楽の構造を的確に把握した上での繊細かつ大胆な表現は高く評価され、現在、各地の音楽祭での公式ピアニスト、オーケストラ公演のソリスト、室内楽奏者、桐朋学園大学嘱託演奏員などで活躍中。また多くの国内外の著名なソリストに請われ、ジャン・ワン、マクサンス・ラリュエ、レ・ヴァン・フランセのジルバール・オダン等と共演し、また世界屈指のチェリスト、ミッシェル・マイスキーと「徹子の部屋」「ニュース23」でも共演し、好評を博す。2007年11月にはNHKBS「びあのピア」にソロで出演。これまでにピアノを寺西昭子、村手静子、T.バラスキヴェスコ、高木茉莉、松浪佳子の各氏に、室内楽をJ. M. ダマース、三善晃、H.ピュイグ＝ロジェ、クリスチャン・イヴァルディの各氏に、チェンバロを遠藤陽子氏に師事。公式オフィシャルサイト <http://miyukipf.hp.infoseek.co.jp/>



Guest

音楽評論家
濱田 滋郎 (Jiro Hamada)

1935年生まれ。60年頃より翻訳、雑誌への寄稿、レコード解説などの仕事につく。78年より2004年まで、東京芸術大学、桐朋学園大学、東京外国語大学、立教大学、東京大学ほかで非常勤講師を務める。NHKFM放送のクラシックおよび民族音楽の番組にレギュラー出演、89年には教育テレビ「市民大学」講師を半年間務める。88、90の両年、キューバの「ハバナ国際ギター・コンクール&フェスティバル」に審査員、講演者として招かれる。主要著書に「スペイン音楽のたのしみ」(音楽之友社)、「フラメンコの歴史」(晶文社)、「エル・folklore」(晶文社)のほか、訳書多数。現在、日本フラメンコ協会会長(90年より)、スペイン音楽こだまの会主宰(85年より)。「レコード芸術」誌新譜月評(器楽部門)レギュラー執筆者。第3回「蘆原英了賞」受賞。

